

三陸新報

三陸道

誘客に高まる期待

小泉一津 谷間開通 仙台から無料バスのホテルも

三陸道の小泉海岸―本吉津谷IC間がきょう21日に開通し、気仙沼市中心部と仙台が直結することで、市内の観光関係者の間では誘客促進への期待が高まっている。一部のホテルでは仙台駅出発のシャトルバスを独自に運行し、宿泊とセツトにした商品を販売。別の関係者も「開通を追い風に」と、新型コロナウイルスで落ち込んだ教育旅行の誘致活動を本格化させる。■4面に特集記事■

今回の開通で、仙台―港北IC―気仙沼港IC間は約1時間20分で結ばれる。教育・修学旅行の受け入れ窓口である気仙沼観光コンベンション協会によると、仙台―

気仙沼間の移動時間短縮は、各旅行代理店も関心を寄せており、各学校の旅行先の候補地として、気仙沼に改めて興味を示しているという。担当者は「北海道か

らも、新千歳から仙台空港を経由し、三陸道を使えば3時間ちょっとで気仙沼に来ることが可能になる」と指摘。関東方面を含めた来年の誘客活動に当たって

前面に出した売り込みを展開する方針だ。協会はさらに、気仙沼と南三陸の移動時間三陸道利用で約30分に縮まったことを受けて、受け入れや体験プログラムなどの開発

に向けた町との連携も強化していくという。一方、サンマリン気仙沼ホテル観洋では、新たな宿泊商品「三陸道開通記念プラン」(2泊3日)の販売を開始した。

仙台駅とホテルを結ぶ無料シャトルバスは、予約があった日の午後1時30分に仙台駅東口を出発し、三陸道を経由して2時間半後の同4時に同ホテルに到着する。これまで、仙台駅と系列の南三陸ホテル観洋を結ぶシャトルバスを運行していたが、三陸道の延伸を踏まえ、気仙沼まで範囲を広げることにした。南三陸ホテル観洋の阿部憲子おかみ(58)は「移動時間が短縮されることで、お客さまにとっては宿泊先での滞在時間が長くなるメリットがある」と強調。「今回の開通は、もう一度、気仙沼と南三陸に目を向けてもらう絶好のチャンス」と期待を寄せている。

※記事の
掲載許諾を
得ています